

令和4年度「長久手市役所の仕事」通知表の作成（外部評価）⑤

令和4年8月8日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和4年度行政評価・外部評価⑤ 「防災事業」【安心安全課】
開催日時	令和4年8月8日（月） 午後2時から午後3時まで
開催場所	市役所北庁舎2階 第5会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 石橋健一、岡崎信久、細萱健一、安立憲市、近藤恵美子 <担当課> くらし文化部長 門前 健 安心安全課長 久保田直也 防災係長 鈴木洋輔 <事務局> 総務部長 加藤英之、総務部次長 福岡隆也、 行政課長 若杉雅弥、課長補佐 水草 純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	1人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

外部評価実施者の 意見等	<p>（委員）</p> <p>成果指標として、安心メールの登録者数の目標値を前年度比+10%としているが、今後の見通しはどのようなか。10年後に20,000人とあるが、具体的に何年までを想定しているのか。</p> <p>⇒1年ごとの計画があるわけではない。ざっくりと2030年あたりを目指している。</p> <p>（委員）</p> <p>10パーセントの根拠は適正なのか。目標を立てる上では、根拠が必要なので、根拠を明確にして進めてほしい。</p> <p>事業の対象は市民とのことだが、本当に市民だけなのか。</p> <p>⇒登録実績の推移から10%と設定している。</p> <p>市内事業所も安心メールの登録対象者である。令和元年度に事業所も対象として広報を行ったところ、例年に比べ多くの登録があった。対象者を市民に限ることなく、目標値などもう一度</p>
-----------------	---

組み立てていきたい。

(委員)

資料番号5の「改善ポイント」について、自助共助の促進に心がけるとは、具体的にどのようなことを考えているのか。また、資料番号6の「事業の今後の方向性」について、安心メールの登録者を増やして防災力向上とあるが、近年の安心メールの配信内容は、自助共助を盛り上げる内容に欠けていると思う。

⇒配信内容は防災関係が10%、他は防犯情報が多いほか、令和2年度以降はコロナ関係のものも配信している。安心メールを日頃から使用してもらい、利用者を拡散させていくことがねらいである。

自助共助へのつなげ方については、例えば東日本大震災が発生した日である3月11日等の過去に大きな災害のあった日に、具体的な自助の取組の紹介を安心メールを使って行うなどしている。今後も、メール受信者が何かしらの行動を起こすきっかけとなるような配信をしていきたい。災害時は受け身になりがちである。情報は自分で取りにいたい。

安心メールに登録することが自助の第一歩で、そこから共助につながっていくと考える。

(委員)

・安心メールは情報が一方通行であり、災害時には双方向性の関係も大事である。

・メールの配信内容は、もう少し防災に関する情報を増やすべき。市民にきちんと響く内容となるよう、工夫してほしい。

・ハザードマップについてももっと市民に知ってもらうべき。

⇒地域で防災に関する話をする際、市民の心に響かせるには、長久手に特化した身近な内容を伝えていく必要があると考えている。

(委員)

・このあたりは大きな災害が起きにくいエリアと言われている。災

害を身近に感じられる、長久手で起こりうる事例をとりあげていくと良い。

・メールの双方向性は大事だが、発災時にネットワークが使用できない状態も起こり得る。

⇒市内10か所に災害時にサイレン・音声を流す防災無線がある。

(委員)

防災無線は、聞こえない地区もあり、全ての地区が網羅されているわけではない。

⇒地域の防災講習会でも、市民から聞こえないという声をいただくことがある。音声放送は市内全域に届くものではないが、サイレンは計算上は市内全域に聞こえるようになっている。また、防災無線で放送した内容を電話で聞くことができる音声放送テレホンサービスもあり、複数の手段で情報が得られるようにしている。

(委員)

防災無線があまり聞こえないという声が市民からある中、どのように対応しているのか。

⇒音による情報伝達には限界があるため、防災無線を増設する等のハード面の整備は予定していない。安心メールや市ホームページ、音声放送テレホンサービスなど、防災無線だけでなく様々な手段により情報伝達していく。

(委員)

防災無線が聞こえない地区が具体的にどの場所なのか、把握しているのか。

⇒把握していない。今後確認する。

(委員)

防災無線を全地域に聞こえるように設置することは金銭的な理由で難しいにしても、聞こえない地域がどこなのかを調査し、その

	<p>地域に重点的に他の情報サービスを周知することで、効率的な周知ができる。</p> <p>(委員)</p> <p>防災無線の聞こえない地域を調査するにあたっては、市役所職員だけで調べるのではなく、地域住民の力を借りて行うと良いのではないか。</p> <p>⇒参考にさせていただく。</p> <p>(委員)</p> <p>洪水時を考慮し、香流川の除草を実施しないか。</p> <p>⇒香流川は愛知県の管理であるため、市は除草しない。</p> <p>(委員)</p> <p>愛知県に除草の要望を出すことはできないか。</p> <p>⇒要望できるかどうか確認し、検討する。</p> <p>(委員)</p> <p>防災においてはインフラの整備が重要である。情報インフラ、災害時に活動できる人のインフラ、設備のインフラ、これらをどう整備するのか。実際にどう運用活用していくのが課題。長久手市地域防災計画にインフラの整備について記しておくとう分かりやすい。防災は専門用語が多いので、小学生でもわかる言葉や絵を活用しながら説明できると良い。</p>
--	--

<p>講評・まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に備えたインフラを整備するだけでなく、活用することを視野に入れた方策やメンテを実施するべき。 ・距離、費用の事情から防災無線が聞こえない地域があることは仕方ないが、その地域が具体的にどこであるかを調査し、また、防災情報の別の受信方法について重点的に周知すると良い。
---------------	--